

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北陸)	◎	都市型ホテル（役員）	・全国旅行支援の延長が発表され、期間中の宿泊需要は引き続き高く推移するとみているが、一方で新型コロナウイルス感染症の感染拡大による全国旅行支援継続への影響を懸念している。また、このまま人手不足の問題が続けば営業体制を見直す必要性も生じる。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況から政策判断で全国旅行支援が休止しなければ、好調なまま推移すると考える。徐々にではあるが外国人観光客が少しずつ増えつつある。とはいえ、高額美術品を購入する富裕層の客がまだまだ少ない。スタッフを増員したいが、募集しても誰も来ない状況である。
	○	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・新型コロナウイルス感染症の第8波を懸念しているが、来年以降も全国旅行支援の延長が決まり、観光客の動きは引き続き好調になるとみている。
	○	スーパー（仕入担当）	・年末に向け帰省客が見込めるため、徐々に改善するとみている。雪のシーズンに突入すれば、買いだめ需要や家ナカ需要が見込める。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・日常生活のスタイルが元に戻ってきた様子から、今後は催事やイベントなどの行事が本格的に回復するとみられ、晴れ型の消費へと家計支出が変化してくると考える。一方で各種値上げラッシュによる生活防衛意識はこれまで以上に強くなるとみられ、買上点数のアップは期待しづらい。今後、衝動買いはなくなるとみられ、消費者ニーズを捉えなければならぬ。価値のある商品を厳選した消費行動が更に強くなると考える。
	○	観光型旅館（スタッフ）	・来年も全国旅行支援が継続されることが、継続的な改善の前提だと考える。
	○	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増えなければ、これから飲食をする機会が増えてくるため、良くなっていく。
	○	通信会社（営業担当）	・新入学生などの新生活準備に向けて、今より販売数は増えるともみているが、前年比ではそこまで伸びないと考える。
	□	商店街（代表者）	・全国旅行支援やインバウンドの復活などに期待しているが、まだ財布のひもが固い客が多いと考える。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	・上向き要因であるプレミアム付商品券は12月に終了する。12月は帰省もあるため良い方向に向かうとみているが、プレミアム付商品券が終わった後は不透明で、先行きについてはどちらともいえない。
	□	百貨店（販売担当）	・今年の年末年始は久しぶりに行動制限がないため人の往来が増加し、しばらく好調に推移するとみている。しかし、様々な物の価格が高騰しているため購入には慎重になり、使う人と節約する人が出て景気を相殺するとみている。また、低価格志向が強くなり、バーゲンセール期やアウトレットなどでの購買が集中する可能性がある。仕掛けによっては売上の向上を見込めるが、利益面が厳しく一長一短な動きになると考える。
	□	衣料品専門店（経営者）	・現状の売上は回復傾向であるが、新型コロナウイルス感染症の第8波で新規感染者数が急速に増えているため、先行きに不透明感があり、楽観できないと考える。
	□	衣料品専門店（経営者）	・社会情勢に大きく左右されるため不透明さはあるが、景気を押し上げるスパイスが必要だと考える。
	□	家電量販店（本部）	・購買価格は値上げにより上昇するとみているが、必要のない機能は求めない傾向にあり、大きく変わることはないと考える。
	□	乗用車販売店（経営者）	・現在も車の点検や修理が増えている状況が続いており、車の買換え等は多く望めないで、しばらくは現状維持が続くと考える。
□	乗用車販売店（役員）	・状況は回復傾向にあるものの、依然として半導体不足などによる生産調整をされている。既に受注している分の配車は徐々に進んでいて数か月間は問題ないが、今後はオーダーできない車種が発生しているため、受注残の漸減により、将来の見通しに不安な点がある。	
□	自動車備品販売店（役員）	・まだ新型コロナウイルス感染症が落ち着かず、相次ぐ値上げもあり、購買意欲は高まらないと考える。	

□	住関連専門店（役員）	・先行きが不明確で、上がる要素や材料が全く見当たらない。
□	その他専門店〔酒〕（経営者）	・今月はカニ漁が解禁となり、県外からのツアー客が殺到し、港町は大変にぎわっていると聞いている。カニがきっかけとなり、少しでも景気が良くなることに期待したい。
□	高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の影響で約3年間、接待や宴会が自粛されたため、新型コロナウイルスによる感染リスクの高い他人との会食は以前のように回復しないと考える。
□	一般レストラン（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況をみなければ分からない。また、全国旅行支援などの施策がどのようになるか注視したい。
□	一般レストラン（統括）	・10月以降、人の動きが活発化していることに比例して、新型コロナウイルスの新規感染者数も増加傾向で推移している。そのため、年明けは新型コロナウイルスの新規感染者数が更に多くなるとみている。感染状況が落ち着けば消費者の行動もまた活発化していくとみられ、消費マインドに波はあるが一定の数値は保たれると考える。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の第8波とインフルエンザの流行次第で予測ができない。3年ぶりの新年会の予約が入っているが、キャンセルの可能性もある。生活防衛の意識の高まりから客の価格への見方は厳しく、仕入コストやガス、電気等の諸経費の上昇した分の一部しか価格転嫁ができていない。
□	通信会社（営業担当）	・新機種の発売も落ち着き、販売台数が前年と大きく変化していない状況である。この先、大きな変革をもたらす要因が見当たらない。
□	通信会社（役員）	・通信、放送サービス共に引き続き前年同月程度か、若干上回る程度の新規契約者数で推移するとみている。
□	通信会社（役員）	・景気の低迷が継続しており、物価高騰等の不安要素もあるが既に織り込み済みの内容であり、これ以上の悪化は想定しづらい。
□	テーマパーク（役員）	・新型コロナウイルス感染症の第8波の懸念があるものの、年明けからの全国旅行支援の再開が発表されるといった明るいニュースもあり、全体としては現状と変わらず推移すると考える。
□	美容室（経営者）	・ウィズコロナの意識は段々と広まってきており、消費に対する影響は薄まってくる。
□	住宅販売会社（従業員）	・一部の企業は好調な業績を収めており、企業の設備投資をどう取り込むかが今後の大きなポイントになると考える。
□	住宅販売会社（従業員）	・建築資材の状況が落ち着かず、景気回復が期待できない。
▲	商店街（代表者）	・前月は何か動きが出てくると思っていたが、良くなる前に次の悪い動きが発生し、我慢できるか懸念している。この冬は大雪の予報があるが、最悪の事態にならないければよいと考える。
▲	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・物価上昇のため客が購入先を選別し、ネット通販などでの購入が増えると考ええる。
▲	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・来年1～2月にも各種値上げが控えており、今月同様に厳しい状況が続くとみている。
▲	百貨店（売場主任）	・物価の上昇により消費者の生活防衛意識は更に強まっている。財布のひもは固くなり、消費は冷え込むとみている。
▲	百貨店（販売促進担当）	・引き続き、生活必需品等の価格高騰の影響があるとみている。原材料や輸入品の値上がりにより、今まで影響が少なく好調だった輸入化粧品やブランド品、輸入食材等が買い控えになると考える。
▲	スーパー（店長）	・物価上昇は止まらないとみている。新型コロナウイルス感染症も落ち着かず、徐々に円安等の影響も出てくると考える。
▲	スーパー（総務担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加すると考える。物価高もあり、買い控えが増加するとみている。
▲	スーパー（店舗管理）	・既に飽和状態であるが、県外資本の競合店による出店が控えている。自店の特色や強みを打ち出すだけではどうにもならない状態である。
▲	コンビニ（店舗管理）	・各種キャンペーンの効果も徐々に落ち着くとみているが、致し方ないと考える。

	▲	衣料品専門店（経営者）	・コストプッシュのみの物価上昇で、消費者物価指数の伸び率は40年ぶりに3.6%であった。今後は電力の大幅値上げが影響を与えると考ええる。
	▲	家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス感染症の給付金などで購入を前倒した反動が続くと考ええる。
	▲	家電量販店（店長）	・ボーナス支給による買換えのための下見はあるが、予算を抑えて検討している客が多く、以前と比べて分割払いを選択する客も増えている。物価高騰により、更に貯蓄意識が上がっている。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・例年この時期は、主にタイヤ交換等で在庫がかなり多くなるが、先行きに関しては円安や物価の上昇等、景気が良くなっていくとはみられない。
	▲	観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しており、今後の成行き次第でどうなるか見通しが立たない。
	▲	旅行代理店（従業員）	・県民割など前年度のような旅行業への支援が恐らくなくなるとみられ、国内需要は一旦落ち着いてしまうことを危惧している。地方空港発着の海外路線復活は、4月以降のようであり、これもすぐには期待できないと考える。
	▲	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の第8波による感染拡大で、また感染拡大警報が出されるような雰囲気があり、平日でも夜は客が少なくなっている。
	▲	通信会社（職員）	・競合他社の動向によって変動すると考える。
	▲	パチンコ店（経理）	・物価高騰のニュースが多く、消費を抑える方向に向かうと考える。
	▲	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	・新規会員の入会はほとんどなく売上は伸びない。新型コロナウイルス感染症の第8波は、ふだんのスタッフ配置に大きく影響が出ており、人繰りにプラスの人件費が出ていく。水道光熱費を始めとする営業用資材等もどんどん値上がりしており、経費の増加は止めようがない状態である。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・住宅価格の上昇により、面積を削る話と設備のグレードを下げる話が多く、家の縮小方向が明確になってきた。イベントへの来場も少なくなっている。
	▲	住宅販売会社（営業）	・本格的に円安の影響が出始め、原価が値上がりすると考える。
	×	スナック（経営者）	・国内外の情勢や物価高の影響により、生活の圧迫がますます進みそうである。
企業 動向 関連  (北陸)	◎	—	—
	○	一般機械器具製造業（経理担当）	・産業機械やオートバイ関連では国内外共に旺盛な需要が続いており、受注は順調に推移するとみている。しかし、主原料価格の高止まりや半導体不足の影響が広がることで、受注した分を作り込めるかが鍵になると考える。
	○	一般機械器具製造業（総務担当）	・依然として製造業全体で工作機械の需要が高水準で推移している。
	○	精密機械器具製造業（財務担当）	・前月に続き、受注状況がやや上向いている。
	○	輸送業（管理会計担当）	・国内の輸送部門の物量が回復傾向にある。また、適正運賃の収受も徐々に進んできている。
	□	繊維工業（総括）	・受注は引き続き堅調であるが、原材料価格高騰の影響が今後も続くと考ええる。
	□	プラスチック製品製造業（企画担当）	・物価高対策など経済対策による消費の持ち直しが期待されるものの、新型コロナウイルス感染症の第8波による感染拡大や、相次ぐ製品価格の値上げによる消費の落ち込みが懸念される。
	□	通信業（営業）	・新型コロナウイルスの感染拡大状況と、政府の景気対策次第で動きが変わると考えるので、正直なところ分からない。
	□	金融業（融資担当）	・ドル円相場は、やや円高に振れたが安値圏で推移している。原燃料価格は緩やかな上昇が続いており、価格転嫁の成否で企業収益に差が生じている。全国旅行支援により旅客、宿泊、飲食業は回復傾向にあるが、新型コロナウイルス感染症の第8波とインフルエンザの同時流行も懸念されており、年末年始の需要期の動向を注視していく必要がある。
	□	司法書士	・住宅ローン金利の安さで新築住宅はこれまで堅調であったが、資材の不足や高騰の影響が出てくるとみている。一方で、活動再開によって営業が回復する事業者もあると考える。

	□	税理士（所長）	・年末の反動で例年1～3月は、飲食業、小売業、サービス業など一般消費者向けは落ち込む。一方で建設業の受注状況は変わらないため、全体としての景気状況は変わらないと考える。
	▲	食料品製造業（経営企画）	・売上がどのように推移するか見通しは立っていないが、コストアップはこの先も続くとみている。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注量から、やや悪くなると見込んでいる。
	▲	建設業（経営者）	・建設業のほかに介護事業も展開しているが、今月の介護事業では、前年同月と比べて電気料金の上昇が目立っている。建設業でも家計でも、電気料金値上げの影響は今後ますます大きくなると考える。
	▲	建設業（役員）	・受注量についてはピークが過ぎた感覚があり、今後は受注が減退する方向になると考える。
	▲	金融業（融資担当）	・首都圏で再び新型コロナウイルス感染症が流行しており、年末年始の需要や経済の動きへの悪影響を懸念している。
	▲	不動産業（経営者）	・今は個人客にしても法人客にしても、問合せがかなり減ってきている。
	×	—	—
	◎	—	—
雇用 関連 (北陸)	○	人材派遣会社（社員）	・新たな求人先の増加や求人内容の変化により、求職者の選択肢が増えることで、マッチング率が多少なりとも向上すると考える。それに伴って景気が上向くとみている。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年末年始は、新年の挨拶など通常の営業広告とは違った内容での広告掲載も多く、初売りセールなどの広告掲載も期待できる。一方で、広告掲載料自体は変動していないものの、円安や物価上昇による広報費削減などの動きを懸念している。
	○	民間職業紹介機関（経営者）	・低調だった飲食や観光、宿泊業がようやく活発になりつつある。新型コロナウイルス感染症の第8波という不安要素はあるが、次第に良くなると考える。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用の話が出てこない。
	□	職業安定所（職員）	・求人数は増加傾向にあるが、人手不足分野の慢性的な求人や高齢化への対応などによるものが多くなっている。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・物価上昇や円安傾向が続き、求人数について状況が変わる要素や、気配が見受けられない。
	▲	人材派遣会社（役員）	・部品調達できないことによる生産活動の悪化に加えて、米国の大企業における人員削減のニュースなどの影響により、マインドが低下すると考える。
	▲	職業安定所（職員）	・ガソリン代も思ったほど元に戻らず、雪が降ることもあり、特にこの年末年始を超える頃に、企業の倒産等が若干出てくるのではないかとみている。また、雇用調整助成金の縮小動向も踏まえて、余り良くならないと考える。
	▲	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染症の第8波の影響が多少出るとみている。
	×	—	—